

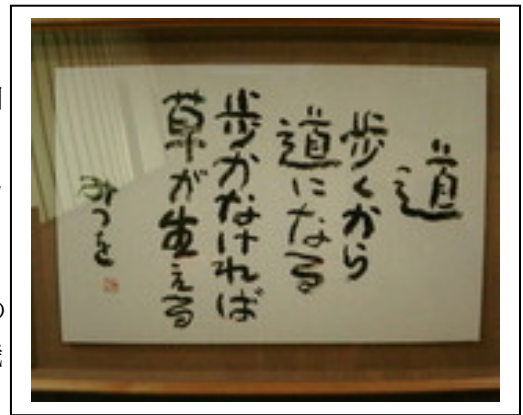
「道」

1. 相田みつをさんの「道」

右掲は、相田みつをさんの「道」という書です。テレビCMにも使われているので、ご存じの方も多いと思います。相田さんは、「歩くから道になる」と言い、「歩かなければ草が生える」と続けておられます。誠に意味深いものがあり、人それぞれ、受け止め方によって大きく変わると思います。

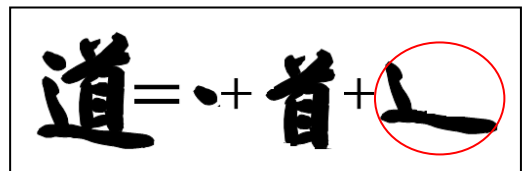
私は、サラリーマンとして、一度、転職(関連会社)した経験があります。さらに、サラリーマンから独立起業していますので、この言葉は、非常に興味深く思っています。まず、転職ですが、サラリーマンとして築いた仲間との信頼関係を断ち切り、新しい世界へ飛び込み馴染むということに直面しました。幸いにも、関連会社なので、周囲の方々には、既に顔見知りの方ばかりでしたが、それまでの「お客様」という応対とは違って、仲間、特に、上司として入社したので応対がガラッと変わった訳です。

また、独立起業でも同じです。船井総研の客員経営コンサルタントという資格を頼りに経営コンサルタントを目指して会社を興したのですが、退職金を元手でしたが、お客様がゼロからスタートしたので、どんどんお金が消えて行くという脅威を経験しました。運良く友人が与えてくれたチャンスからお客様が出来て、今日まで社員を雇いながら経営して来れましたが、船井総研で学んだ約100人の仲間は、2~3年でサラリーマンに戻ってしまいました。経営には、「運」という要素が大きいと実感する次第です。



2. 「道」という漢字

右掲は、船井総研の客員経営コンサルタントの資格を得て、独立の時期を見計らっていた時に、富田林にあるお客様から奈良県の尺土にあるお客様に向かっていて、お昼で入ったレストランで一人食べる姿を見て、自民党党員という方が、わざわざ、話しかけて下さった時の話なのです。きっと、何か悩んでいるように映ったのでしょうか、声をかけていただき、「実は、船井総研の客員経営コンサルタントの資格を取ったが、これから行く会社のシステムがトラブルとなっていて、それが解決するまで辞める訳にいかない」と打ち明けたのです。



その方は、「道」という漢字の話をされたのです。右上掲にもあるように、「道」をバラすと、「首」と「しんにゅう」に分かれ、「しんにゅう」は「点」と「赤丸の部分」に分かれる、さらに、「赤丸」は、「長い下積み」と「曲がりくねりながら上昇する部分」とに分かれると教えてくださり、「首」すなわち「命」をかけて歩むことが「道」であり、高い「志」(点)が必要であり、長い導入部(下積み)の期間があつて、どこかで、上昇し始めるのだと言う話でした。志が低いと途中で「挫折」して、導入部の時間をムダにすると諭して下さったのです。

僅かな時間の会話でしたが、凄く心に響いたお話でした。お名刺も頂いたのですが、サラリーマン時代のものなので、残っていないのが残念です。「首」=「命」=「覚悟」・・と思うのですが、「不転の志」といっても、多くの方は途中で挫折して「安きに流れる」のです。私は、上記でも書きましたように、「運」よくお客様に恵まれて、しかも、社員にも恵まれて、小さいながらも今日まで経営しています。本当の意味で、「運」が「不安」をカバーしてくれたというのが本音です。友人の存在、お客様の存在が大きく、社員がいたからこそ生活スタイルを変えることなく今日まで来れたと感謝しています。まさに、「運も実力のうち」と言いますが、その通りと思っています。これは、「社員は運のよい人を選ぶ」という松下幸之助さんの教えにもつながります。

3. 「明日への蓄え」

右掲は、船井総研で勉強していた時に、講師の宮内先生（現在は独立されています）が教えて下さった話です。何の仕事をして、毎日々々、働く訳ですが、宮内先生は、その労働の成果は「その日の食い扶持」と「明日への蓄え」に分かれるとおっしゃり、船井先生の「こつこつ、じわじわ、いきいき、たんたん」という人生観を教えてくださいました。

「一日の労働」＝「その日の食い扶持」
＋「明日への蓄え」
【こつこつ、じわじわ、いきいき、たんたん】

私は、「明日への蓄え」は「経験」だと考えています。確かに、「お金」ということも重要ですが、人生の中では「赤字」という時期もあるので、この逆境の時でも「経験」は等しく残るのです。この経験の積み重ね、Σ（経験）が活かされることが重要なのです。例えば、Σ（経験）を層別に仕分けると得意な分野も見えてきます。また、トレンドを分析すれば「次の手」も浮かんでくるのです。船井先生は「過去オール善」と教えてくださいますが、「過去」はその成否に関わらず「経験」であり、DNAが反応する「経験」が見えてくるのです。

このDNAが反応することは、「好き」であり「楽しい」とも言えるのです。「得意伸長法」と言いますが、「好き」な事で「楽しい」状態であれば「創意工夫」も生まれてくるのです。論語の「知好楽」でいう「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず」という状態なのです。しかし、「好き」な事でも常に「楽しい」とは限らないので、「楽しめる」という環境づくりが重要になります。

その一つが「経験」を活かされるという状況をつくる事が重要です。やはり、経験があることに取り組むのは「先が見える」ので不安感が少なくなり、かつ、段取りもできますので時間的にも早く着手・完了が可能になります。従って、「経験」を蓄積できて、かつ、共有化できることが重要です。情報システムを活用して、IBMなどで「知識データベース」と称している活用の仕方が必要になります。当社では、独自に文書検索システムを作成して、文書名だけでなく補足情報を付加しておき、その内容をキーワード検索で検索できるようにしています。このように、システム化しておく個人経験ではなく、会社や組織の経験として活用される可能性が高くなるのです。

4. 「道」⇒ Σ（経験）⇒ 効率化

右掲は、船井先生に教えて頂いた作業効率の表です。経験を活用できれば、1.6倍の効率に高まると言えるのです。さらに、「楽しい」状態になって「創意工夫」を加えるようになると1.6²と効率が約3倍にも跳ね上がるのです。従って、「道」は繋がっている事が重要で、過去の経験を活かすということが人生を楽しくしてくれると言えます。

1.0 : やらされる状態の効率
1.6 : ゴールが見える状態の効率
1.6² : 自分で創意工夫する効率

第1項で「道」という漢字をバラすと「首」と「しんにゅう」に分かれると書きました。その「しんにゅう」は、目標となる「点」と長い導入部分を踏んだ部分に分かれるとし、長い下積みの後にブレイクして上昇気流に乗るといふ風に書きました。しかし、その上昇気流も曲がりくねっているのです。一つ一つの目標を順に追求することが大切なのです。船井先生は、「こつこつ、じわじわ、いきいき、たんたん」という言葉で、「たんたん」の次は「こつこつ」に戻り「じわじわ」という風に循環するという事を教えてくださいました。これが堂々巡りではなく、スパイラル・アップという上昇気流で巡回する事がポイントになります。その為には、「道」は長く続く方がよいのです。

長い道のりを歩むには、確固たる「信念」とも言える「大きな目標」（大志）が重要になります。「好き」で「楽しい」ことを仕事として選び、大きな目標を確信することで、DNAをフル活用することが重要なポイントになります。その為には、「楽しい」という状況を自分で作って行くことが重要です。「楽しい」と思えない時でも、意識的に「楽しい」を醸し出すと、実際に、作業に手がついてリズムが出て、楽しい方向に転換して行くのです。実践してみてください。

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryo.html>にあります！】